

# 2019年度 第3四半期 決算説明資料

株式会社 神戸製鋼所

2020年2月6日

## 1. 連結業績概要

## 2. セグメント別 売上高・経常損益

## 参考情報

本資料の予想に係る部分は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

## 2019年度第3四半期累計期間（2019年4月1日～12月31日）

	18年度 第3四半期 (累計) ①	19年度 第3四半期 (累計) ②	前年同期比 ②-①
売上高	14,483	<b>13,888</b>	△595
営業損益	382	<b>143</b>	△239
経常損益	271	<b>71</b>	△200
特別損益	※1,2,3 327	※4 <b>74</b>	△252
親会社株主に帰属する 四半期純損益	450	<b>72</b>	△378

※1 子会社化関連損益 48億円（神鋼鋼線工業の子会社化）

※2 投資有価証券売却益 314億円（神鋼不動産株式の75%を売却）

※3 災害による損失△36億円（台風20号・21号・24号、西日本豪雨、大阪北部地震等）

※4 投資有価証券売却益（政策保有株式の売却）

## 2019年度業績見通し

(億円)

	18年度 ①	19年度見通し		増減	
		前回② (11/6)	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	19,718	19,700	<b>18,900</b>	△818	△800
営業損益	482	150	△ <b>50</b>	△532	△200
経常損益	346	0	△ <b>250</b>	△596	△250
特別損益	143	※ <sup>1,2</sup> △41	※ <sup>3</sup> <b>74</b>	△69	+115
親会社株主に帰属する 当期純損益	359	△50	△ <b>150</b>	△509	△100

※1 投資有価証券売却益 67億円  
(政策保有株式の売却)

※2 投資有価証券評価損 △108億円

※3 投資有価証券売却益 74億円  
(政策保有株式の売却)

## &lt;為替レート&gt;

	18年度	19年度	
		第3四半期 (累計)	第4四半期 見通し
USD (円/\$)	111	109	110
中国元 (円/元)	16.5	15.6	15.0
ユーロ (円/€)	128	121	120

- 当社の財政状態、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に考慮することとし、配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、各期の業績及び配当性向等を勘案して決定しております。
- 今般、通期の親会社株主に帰属する当期純損益が損失となる見込みであることなどを総合的に考慮した結果、当期の期末配当につきましては、誠に遺憾ながら見送る方針を取締役会で決議いたしました。

### <配当実績>

	16年度			17年度			18年度			19年度(予想)		
	中間	期末		中間	期末		中間	期末		中間	期末	
配当金額 (円/株)	-	-	-	-	30	30	10	10	20	-	-	-

## 2019年度第3四半期累計期間 (セグメント別)

(億円)

		18年度		19年度		増減		前回公表 (11/6)	
		第3四半期 (累計) ①	年度 ②	第3四半期 (累計) ③	今年度 見通し ④	第3四半期対 前年同期 ③-①	年度 対前年 ④-②	19年度 ⑤	増減 ④-⑤
鉄鋼	売上高	5,589	7,539	5,455	7,250	△134	△289	7,600	△350
	経常損益	<b>31</b>	<b>47</b>	<b>△46</b>	<b>△250</b>	<b>△78</b>	<b>△297</b>	<b>△50</b>	<b>△200</b>
	(内 在庫評価影響)	(30)	(35)	(10)	(-)	(△20)	(△35)	(45)	(△45)
溶接	売上高	620	839	637	830	+17	△9	850	△20
	経常損益	<b>23</b>	<b>36</b>	<b>25</b>	<b>30</b>	<b>+1</b>	<b>△6</b>	<b>30</b>	-
アルミ・銅	売上高	2,718	3,590	2,514	3,400	△204	△190	3,500	△100
	経常損益	<b>10</b>	<b>△15</b>	<b>△127</b>	<b>△250</b>	<b>△137</b>	<b>△235</b>	<b>△210</b>	<b>△40</b>
	(内 在庫評価影響)	(15)	(20)	(△20)	(△40)	(△35)	(△60)	(△40)	(-)
機械	売上高	1,216	1,714	1,173	1,680	△43	△34	1,740	△60
	経常損益	<b>14</b>	<b>12</b>	<b>65</b>	<b>60</b>	<b>+51</b>	<b>+48</b>	<b>50</b>	<b>+10</b>
エンジニア リング	売上高	899	1,517	958	1,450	+59	△67	1,480	△30
	経常損益	<b>27</b>	<b>65</b>	<b>45</b>	<b>60</b>	<b>+18</b>	<b>△5</b>	<b>60</b>	-
建設機械	売上高	2,971	3,860	2,778	3,600	△193	△260	3,900	△300
	経常損益	<b>226</b>	<b>255</b>	<b>87</b>	<b>70</b>	<b>△138</b>	<b>△185</b>	<b>90</b>	<b>△20</b>
電力	売上高	543	761	516	740	△27	△21	770	△30
	経常損益	<b>△32</b>	<b>△3</b>	<b>34</b>	<b>65</b>	<b>+67</b>	<b>+68</b>	<b>65</b>	-
その他	売上高	293	420	213	330	△79	△90	330	-
	経常損益	<b>17</b>	<b>23</b>	<b>7</b>	<b>25</b>	<b>△9</b>	<b>+2</b>	<b>30</b>	<b>△5</b>
調整額	売上高	△369	△525	△358	△380	+10	+145	△470	+90
	経常損益	<b>△45</b>	<b>△75</b>	<b>△20</b>	<b>△60</b>	<b>+24</b>	<b>+15</b>	<b>△65</b>	<b>+5</b>
合計	売上高	14,483	19,718	13,888	18,900	△595	△818	19,700	△800
	経常損益	<b>271</b>	<b>346</b>	<b>71</b>	<b>△250</b>	<b>△200</b>	<b>△596</b>	<b>0</b>	<b>△250</b>

## 2019年度第3四半期累計期間 (セグメント別)

## 鉄鋼

- 鋼材の販売数量は、国内の自動車向けの需要が堅調に推移したものの、海外の自動車向けを中心に需要が減少したことから、前年同期を下回った。また、鋼材の販売価格は、主原料価格上昇を反映し、前年同期を上回った。
- 経常損益については、前年同期に発生した生産設備トラブルや自然災害の影響が解消し、また生産コストの改善を進めたものの、販売数量の減少に加えて、主原料価格の上昇分の販売価格への反映が遅れる影響などから、前年同期に比べ悪化した。

(億円)

	18年度 第3四半期 (累計) ①	19年度 第3四半期 (累計) ②	前年同期比 ②-①
売上高	5,589	5,455	△134
経常損益	31	△46	△78
(内 在庫評価影響)	(30)	(10)	(△20)

## &lt;生産・販売状況&gt;

粗鋼生産量	508万t	500万t	△8万t
鋼材販売量	419万t	404万t	△15万t
鋼材輸出比率(金額ベース)	25.5%	23.9%	△1.6%
鋼材販売単価(千円/t)	86.0	87.4	+1.4

## &lt;増減分析&gt;

18年度第3四半期(累計)31億円 → 19年度第3四半期(累計)△46億円  
(増減：△78億円)

(億円)

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+45	原料価格	△130
総コスト削減	+80	在庫評価影響※	△20
連結子会社・持分法	+15	為替影響	△5
		その他	△63
合計	+140	合計	△218

※在庫評価影響には総平均計算による影響及び低価法影響を含む。

# 2019年度第3四半期累計期間 (セグメント別)

## 溶接

- 溶接材料の需要は、国内では、建築向けを中心に底堅く推移した。海外においては、タイやインドネシアなどで需要が低迷したものの、韓国を中心とした造船向けの需要は下げ止まった。
- 溶接システムは、国内の建築向けの需要が堅調に推移した。
- これらの結果、前年同期に比べ、増収増益となった。

(億円)

	18年度 第3四半期 (累計) ①	19年度 第3四半期 (累計) ②	前年同期比 ②-①
売上高	620	637	+17
経常損益	23	25	+1



## 2019年度第3四半期累計期間 (セグメント別)

## アルミ・銅

- アルミ圧延品の販売数量は、半導体・IT関連の需要が減少したことなどから、前年同期を下回った。
- 銅圧延品の販売数量は、半導体や自動車用端子向けの需要が減少したことなどから、前年同期を下回った。
- 経常損益については、販売数量の減少、米国のサスペンション製造子会社における設備トラブルの影響、地金価格の下落に伴う在庫評価影響の悪化などにより、前年同期に比べ悪化した。

(億円)

	18年度 第3四半期 (累計) ①	19年度 第3四半期 (累計) ②	前年同期比 ②-①
売上高	2,718	2,514	△204
経常損益 (内 在庫評価影響)	<b>10</b> (15)	△ <b>127</b> (△20)	△ <b>137</b> (△35)

## &lt;販売状況&gt;

アルミ圧延品販売量	260千t	248千t	△ 12千t
銅板条販売量	45千t	39千t	△ 6千t
銅管販売量	64千t	63千t	△ 1千t

## &lt;増減分析&gt;

18年度第3四半期(累計)10億円 → 19年度第3四半期(累計) △127億円  
(増減：△137億円)

(億円)

増 益 要 因	減 益 要 因	
	生産・出荷	△ 30
	総コスト	△ 30
	在庫評価影響※	△ 35
	その他	△ 42
合 計	-	△ 137

※在庫評価影響には総平均計算による影響及び低価法影響を含む。

## 2019年度第3四半期累計期間 (セグメント別)

### 機械

- 売上高は、石油化学向けの圧縮機を中心に大型案件の売上を計上した前年同期に比べ、減収となった。
- 経常損益は、案件の採算性の改善やアフターサービスの受注が増加したことなどから、増益となった。

(億円)

	18年度 第3四半期 (累計) ①	19年度 第3四半期 (累計) ②	前年同期比 ②-①
売上高	1,216	1,173	△43
経常損益	14	65	+51

### エンジニアリング

- 新鉄源プラントや廃棄物処理案件など既受注案件の進捗差などから、増収増益となった。

(億円)

	18年度 第3四半期 (累計) ①	19年度 第3四半期 (累計) ②	前年同期比 ②-①
売上高	899	958	+59
経常損益	27	45	+18

# 2019年度第3四半期累計期間 (セグメント別)

## 建設機械

- 油圧ショベルの販売台数は、国内は、堅調な建設投資を背景に、前年同期と比べ増加した。海外では、中国での需要は堅調であったものの、東南アジアにおいて、インフラ工事の延期の影響などにより需要が減退したことなどから、前年同期を下回った。
- クローラークレーンの販売台数は、主に東南アジアにおいて海外メーカーとの競争が激化したことから、前年同期を下回った。
- 売上高は、油圧ショベルにおいて、中国での販売機種構成の変化、東南アジアでの販売台数減少、為替がユーロや中国元に対して円高となった影響などから減収となった。経常損益は、売上高の減少、開発費などの固定費の増加に加えて、貸倒引当金の戻入益が前年同期に比べ減少したことなどから、減益となった。

(億円)

	18年度 第3四半期 (累計) ①	19年度 第3四半期 (累計) ②	前年同期比 ②-①
売上高	2,971	2,778	△193
経常損益	226	87	△138

## 電力

- 販売電力量は、真岡発電所1号機の稼働開始により前年同期を上回ったものの、電力単価は発電用燃料価格の市況下落の影響を受け、前年同期を下回った。この結果、売上高は前年同期を下回った。
- 経常損益は、真岡発電所1号機の稼働開始に加え、前年同期に計上した神戸の新規発電プロジェクトの資金調達に伴う費用がなくなったことから増益となった。

(億円)

	18年度 第3四半期 (累計) ①	19年度 第3四半期 (累計) ②	前年同期比 ②-①
売上高	543	516	△27
経常損益	△32	34	+67

## 2019年度業績見通し（セグメント別）

## 鉄鋼

- 販売数量は、米中貿易摩擦の影響などにより、海外自動車向けや建築向けなどで前回想定に比べて減少することを想定。
- 経常損益は、鋼材の販売数量の減少に加えて、在庫評価影響の悪化などから、前回想定に比べ悪化を見込む。

(億円)

	18年度 ①	19年度見通し		増減	
		前回 (11/6) ②	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	7,539	7,600	7,250	△289	△350
<b>経常損益</b>	<b>47</b>	<b>△50</b>	<b>△250</b>	<b>△297</b>	<b>△200</b>
(内 在庫評価影響)	(35)	(45)	(-)	(△35)	(△45)

## &lt;生産・販売状況&gt;

粗鋼生産量	691万t	680万 t 程度	660万 t 程度	△ 31万t程度	△20万t程度
鋼材販売量	562万t	555万 t 程度	530万 t 程度	△ 32万t程度	△ 25万t程度
鋼材輸出比率 (金額ベース)	24.9%	24%程度	23%程度	△2%程度	△1%程度

## &lt;増減分析&gt;

○19年度前回見通し△50億円 → 19年度今回見通し△250億円 (増減△200億円)

(億円)

増 益 要 因		減 益 要 因	
原料価格	+30	生産・出荷	△ 155
総コスト削減	+5	在庫評価影響※	△ 45
為替影響	+10	連結子会社・持分法	△ 5
		その他	△ 40
合 計	+45	合 計	△ 245

※在庫評価影響には総平均計算による影響及び低価法影響を含む。

## 2019年度業績見通し（セグメント別）

## 溶接

- 溶接材料の販売数量は減少を想定するものの、調達コストダウンを織込むことなどから、経常損益については前回想定を据え置く。

(億円)

	18年度 ①	19年度見通し		増減	
		前回 (11/6) ②	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	839	850	830	△9	△20
経常損益	36	30	30	△6	-

## 2019年度業績見通し（セグメント別）

## アルミ・銅

- アルミ圧延品の販売数量は、自動車向けの需要が減少することに加え、半導体・IT関連向けの需要の回復が前回想定よりも遅れることなどから、前回想定に比べて減少することを想定。
- 経常損益については、販売数量の減少に加え、歩留り改善など計画していたコストダウンの未達などを織込んだことなどから、前回想定に比べ悪化を見込む。

(億円)

	18年度 ①	19年度見通し		増減	
		前回 (11/6) ②	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	3,590	3,500	3,400	△190	△100
経常損益	△15	△210	△250	△235	△40
(内 在庫評価影響)	(20)	(△40)	(△40)	(△60)	(-)

## &lt;販売状況&gt;

アルミ圧延品販売量	344千t	340千t程度	335千t程度	△9千t程度	△5千t程度
銅板条販売量	59千t	53千t程度	53千t程度	△6千t程度	同程度
銅管販売量	85千t	85千t程度	83千t程度	△2千t程度	△2千t程度

## &lt;増減分析&gt;

○19年度前回見通し△210億円 → 19年度今回見通し△250億円(増減△40億円)

(億円)

増益要因	減益要因
	生産・出荷 △10
	総コスト △10
	その他 △20
合計 -	合計 △40

※在庫評価影響には総平均計算による影響及び低価法影響を含む。

## 2019年度業績見通し（セグメント別）

## 機械

- 経常損益については、採算性の改善やアフターサービス案件の受注が堅調に推移することなどから、前回想定に比べ増益を見込む。

(億円)

	18年度 ①	19年度見通し		増減	
		前回 (11/6) ②	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	1,714	1,740	1,680	△34	△60
経常損益	<b>12</b>	<b>50</b>	<b>60</b>	<b>+48</b>	<b>+10</b>
受注高	1,717	1,600程度	1,650程度	△70程度	+50程度

## エンジニアリング

- 既受注案件が順調に進捗すると見込まれることから、経常損益については前回想定を据え置く。

(億円)

	18年度 ①	19年度見通し		増減	
		前回 (11/6) ②	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	1,517	1,480	1,450	△67	△30
経常損益	<b>65</b>	<b>60</b>	<b>60</b>	△5	-
受注高	1,226	1,350程度	1,350程度	+120程度	同程度

# 2019年度業績見通し（セグメント別）

## 建設機械

- 油圧ショベルの販売台数は、国内の需要は堅調に推移するものの、東南アジア、インドを中心に需要の減少が見込まれることなどから、前回に比べ減少すると想定。
- クローラクレーンについても、東南アジアで競合が激しくなることなどから、販売台数は前回に比べ減少すると想定。
- 経常損益については、油圧ショベルの販売台数の減少などから、前回想定に比べ減益を見込む。

(億円)

	18年度 ①	19年度見通し		増減	
		前回 (11/6) ②	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	3,860	3,900	3,600	△260	△300
経常損益	255	90	70	△185	△20

## 電力

- 神戸発電所1・2号機及び真岡発電所1号機の安定操業により、引き続き安定的な電力供給を行なう。
- 経常損益については、前回想定を据え置く。

(億円)

	18年度 ①	19年度見通し		増減	
		前回 (11/6) ②	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	761	770	740	△21	△30
経常損益	△3	65	65	+68	-



# 参考情報

# 【フリーキャッシュフローおよび設備投資の状況】

## ＜フリーキャッシュフロー＞

(億円)

	18年度 ①	19年度		増減	
		前回公表 (11/6)②	今回見通し③	対前年③-①	対前回③-②
営業キャッシュフロー	723	<b>100</b>	△ <b>200</b>	△ 923	△ 300
投資キャッシュフロー	△ 109	△ <b>1,400</b>	△ <b>1,300</b>	△ 1,191	+100
プロジェクトファイナンス除く フリーキャッシュフロー	614	△ <b>1,300</b>	△ <b>1,500</b>	△ 2,114	△ 200
プロジェクトファイナンス含む フリーキャッシュフロー	385	△ <b>2,400</b>	△ <b>2,650</b>	△ 3,035	△ 250
プロジェクトファイナンス除く 現預金残高	1,926	<b>700</b>	<b>650</b>	△ 1,276	△ 50

## ＜設備投資の状況＞

(億円)

	18年度 ①	19年度		増減	
		前回公表 (11/6)②	今回見通し③	対前年③-①	対前回③-②
設備投資計上額	1,334	<b>2,800</b>	<b>2,750</b>	+1,416	△ 50
設備投資支払額	1,324	<b>2,750</b>	<b>2,700</b>	+1,376	△ 50
減価償却費	1,025	<b>1,050</b>	<b>1,050</b>	+25	-

	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 見通し
RO S ※1	3.8%	1.8%	△1.3%
1株当たり当期純損益	174.43円	99.20円	△41.36円
有利子負債 ※2	7,260億円	7,242億円	7,550億円
D/Eレシオ ※3	0.98倍	※4 0.98倍	1倍程度
RO A ※5	3.1%	1.5%	△1.0%
RO E ※6	8.9%	4.8%	△2.1%

※1：売上高経常利益率

※2：有利子負債は、IPPプロジェクトファイナンスを含まない

※3：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本

※4：2019年度分借入金の前倒し調達（921億円）含む

前倒し調達除く2018年度D/Eレシオ：0.85倍

※5：経常損益/総資産

※6：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本

# <参考資料> 【鉄鋼】四半期別鋼材生産・販売（単体）

	18年度 実績						
	1Q	2Q	上期				年度
				3Q	4Q	下期	
粗鋼生産量 (万t)	172	166	339	169	183	352	691
鋼材販売量 (万t)	139	132	271	149	143	291	562
鋼材販売単価 (千円/t)	83.5	87.0	85.2	87.4	86.4	86.9	86.1
鋼材輸出比率 (金額ベース)	25.9%	25.5%	25.7%	25.0%	23.1%	24.1%	24.9%

	19年度 見通し						
	1Q	2Q	上期				年度
				3Q	4Q	下期	
粗鋼生産量 (万t)	172	167	339	161	160程度	320程度	660程度
鋼材販売量 (万t)	136	136	273	132	130程度	260程度	530程度
鋼材販売単価 (千円/t)	87.3	86.1	86.7	88.9			
鋼材輸出比率 (金額ベース)	25.3%	25.5%	25.4%	21.0%	21%程度	21%程度	23%程度